

### 【シニア産業カウンセラー育成講座】 「No.11 逐語記録・事例報告の作成と検討」を受ける方へ

#### 【難関への挑戦】

シニア講座の最大の難関といわれるのが、「逐語」講座です。特に2期は、6か月前から「申込受付」となっていることからもお分かりいただける通り、事前課題として「3回以上の継続カウンセリング」を元に20分程度の逐語記録を起こさないで、20分程度の逐語記録を起こしたいへんな作業が待ち構えています。作成したことのある人なら、誰しもお分かりかと思いますが、一度作成した逐語記録であっても、見直しをすればするほど新たな気づきがあるもので。これこそ、自身のカウンセリングを客観的に見て改善のヒントを得る最良の機会なのです。それ故、2期を申し込む際には、周到に準備していただくことが肝要です。

【承諾書の位置づけ】  
CLは、ピアカウンセリングでも

構わないとになっています。しかし、その場合でもCLから「承諾書」を必ずもらうようにしてください。よく「承諾書は必要なのでしょうか?」とのお尋ねがありますが、承諾書はCLが、COに対して「自分の録音が勉強目的で使われることを承知した」という意思表示ですので、後々のトラブルを避け、受講者ご自身を守るために、保管しておいてください(協会に提出するものではありません)。

#### 【録音環境】

オンラインでの録音可否についても、よくお尋ねがあります。すでに、オンラインでのカウンセリングは珍しいことではなくなっていますので、オンラインでの録音を禁止する立場にはありません。オンラインの場合、CLの全身を観察できないなどのデメリットが指摘される一

方で、CLの音声は細かな息遣いまで聞こえるといったメリットもあります。CLのニーズやメリット・デメリットを、ご自身でご判断ください。録音機材については、ICレコーダーを推奨しており、スマートフォンの録音機能による録音は望ましくないと考えています。これは、通信機器のある機器にスマートフォン等が侵入して録音を盗み聞きされるリスクがあり得るためで、受講者さんとCLを守る目的です。

#### 【何を振り返るのか】

養成講座では、必ず「自己理解」が「ねらい」に掲げられていましたが、「うまくできなかつた」「次はもつと丁寧に応答したい」といふのでは、自己理解には不十分です。そのときの自分の有り様がどうだったのか?自己一致できなかつた、受容できなかつた、共感できなかつたなら、なぜそうなつてしまつたのかを、突き詰めて振り返りたい。そうした深い自己理解な

#### 【参加態度など】

逐語検討会や事例検討会に、自身が提出者ではなく参加したときには、学習材料の提出者に感謝の念をもつて臨みたいものです。提出者を批判しないのはもちろん、提出者の気づきに繋がるような質問やフィードバックも心掛けたいものです。

方で、CLの音声は細かな息遣いまで聞こえるといったメリットもあります。CLのニーズやメリット・デメリットを、ご自身でご判断ください。録音機材については、ICレコーダーを推奨しており、スマートフォンの録音機能による録音は望ましくないと考えています。これは、通信機器のある機器にスマートフォン等が侵入して録音を盗み聞きされるリスクがあり得るためで、受講者さんとCLを守る目的です。

#### 【事前学習と自己研鑽】

シニア講座では、ある程度の基礎的な学習を済ませてから受講されることをお勧めしている科目がありますが、この講座も過去に逐語検討会に提出した経験があることが望ましいとしております。産業カウンセラーは、日頃からケースカンファレンスや事例検討会などに届かないと言えましょう。